観光・交流　人口定着

みつまた地区

（新潟県湯沢町）

○ 計　画　期　間　平成 22 年度～平成 26 年度
○ 面　　積　103ｈａ
○ 交付対象事業費　179.4 百万円
○ 町人口　7,960 人

ポイント

通年型の保養、観光、交流の促進による自立した生活を営み続けられるまちづくりの推進

地区概要

国道 17 号沿道に新設される道の駅に地域の観光情報発信拠点となる施設を整備するとともに、三国街道沿いの歴史ある街なみとの回遊性向上のもとで、スキーシーズン外における地域の魅力向上を図る。

目　標

「人と自然の共生、歴史文化を活かした保養、観光、交流のまち”みつまた”の再生」を大目標に、スキーシーズン外も含めた通年型の保養、観光、交流の促進と自立した生活を営み続けることが可能な地域環境への改善を図る。

指　標

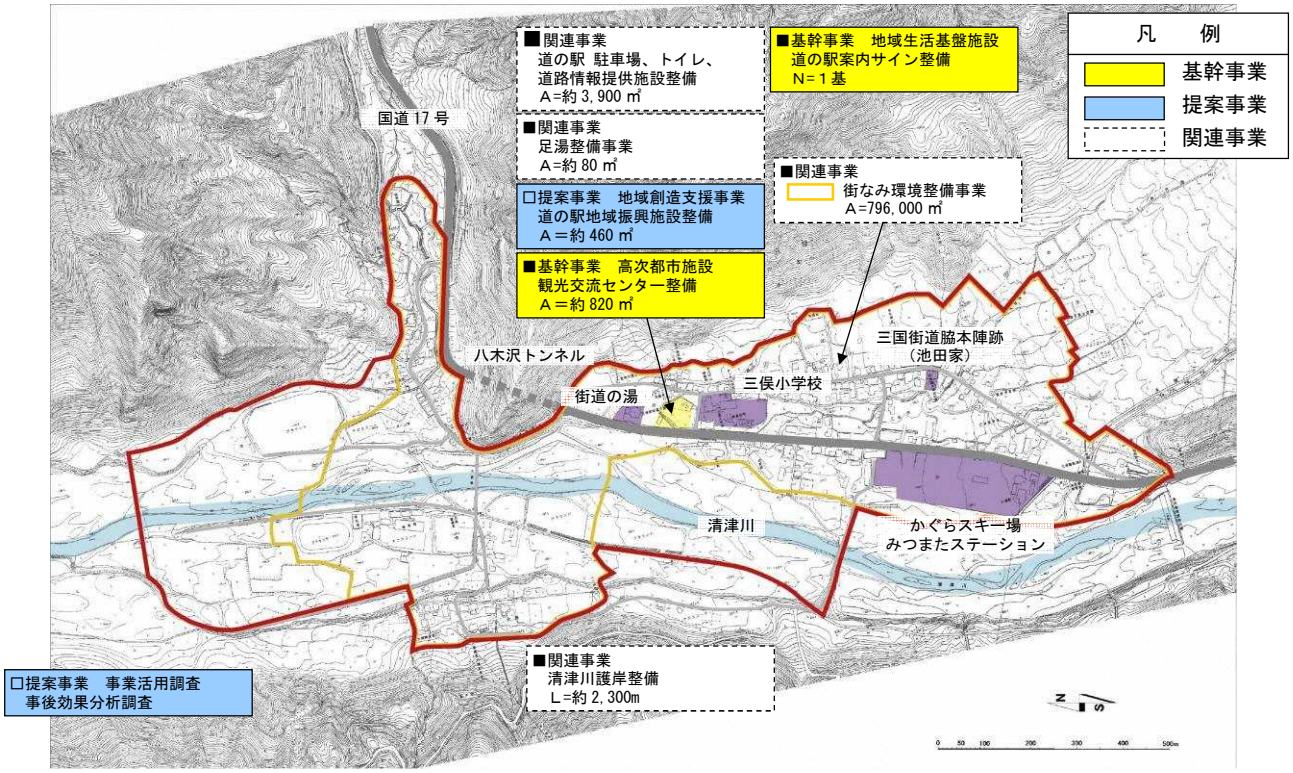
地域の自然と歴史を活かした新たな拠点づくりによる、スキーシーズン外の観光入込客数の増加や地区人口の減少抑制を指標とした。

項　目	現況値	(年)		見込み値	(年)
シーズン外観光入込客数	29,300 人/年	(H20)	→	31,200 人/年	(H26)
街道の湯　外来入浴者率	74.6%	(H20)	→	76.0%	(H26)
地区人口	302 人	(H21)	→	280 人	(H26)

事業内容

基幹事業（124.6 百万円）→　観光交流センター（約 820m^2）

提案事業（ 54.8 百万円）→　道の駅地域振興施設整備（約 460m^2）、事後効果分析調査



地区の現況と課題

当該地区は、三国街道の宿場町として栄えた歴史を有し、一般道（国道 17 号）によって湯沢・新潟と関東地域とを結ぶ玄関口としての役割を担い、特に、冬期は多くのスキーヤーが訪れる地域となっている。

しかしながら、近年のスキー観光客の減少に伴って民宿の廃業、店舗の撤退などの動きに歯止めがかからずに地域活力の低下が著しく、冬期のスキー観光に大きく依存して通年型の産業構造となっていない。

また、買い物の便や医療等に関して交通アクセスに難があるなど、利便性の面で他地区と大きな格差が生じており、人口減少と少子高齢化の進展に歯止めがかからず、将来的な地区存続の危機的な状況にある。

史跡　三国街道脇本陣池田家

みつまた地区の民宿街

提案事業の特徴

道の駅地域振興施設整備事業

地域の新たな観光情報発信拠点として整備する道の駅の地域振興施設内に食堂を設置するととともに、これに付随する外構及び駐車場を整備した。

地域情報交流センター整備前

地域情報交流センター整備後（内部）

地域情報交流センター整備後

計画策定プロセス

三俣未来まちづくり協議会

かつて、みつまた地区は清津川ダムの建設により、貯水池敷となる予定であったが、様々な変遷を経て、平成 14 年 7 月に計画中止の決定がなされた。

これを踏まえ、地区の新たな未来創造に向けて、住民主体の「三俣未来まちづくり協議会」が発足し、国、県、町とともに、生活環境向上のための具体的な地域振興策の検討を重ねながら、住民一丸となって様々な活動に取り組んでいる。

地区を流れる清津川